

ヒクイナ

Porzana fusca erythrothorax (Temminck et Schlegel)

【選定根拠】 大部分の個体群で個体数が減少

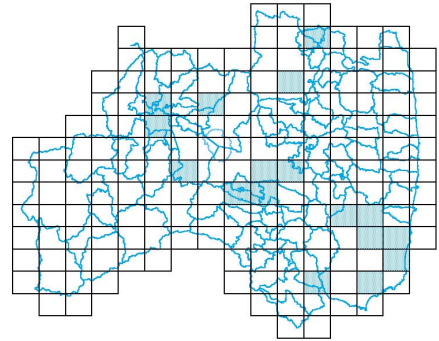
【形態】 パンよりも10cmも小さく、ムクドリ大。名のとおり全身が赤茶色で、後頭、背、翼が暗緑褐色。脇と下腹、下尾筒は白と黒の横班、足は赤色。繁殖期に「キョッ、キョッ、キョッキョキョ・・・」とはじめ遅く、次第にテンポの早くなる声で鳴く。それを「たたく水鶏に つい騙されて」と昔の人は詠んでいる。

【分布】 夏鳥として全国に渡来し繁殖する。越冬例もある。インドネシア、マレーシア、インド等で越冬する。

【県内の分布、生息状況】 県内全域の水田や湿地から夏鳥としての情報があったが、昭和45年頃から減少傾向が進み、最近の確認情報は郡山市で1999年5月、2000年5月と6月に、2001年9月に裏磐梯で確認されている。

【生息に影響を与えている要因】 池沼開発 湿地開発 農業汚染

【特記事項】 生息地の保全と越冬地の保護対策



オオジシギ

Gallinago hardwickii (Gray)

全国カテゴリー；準絶滅危惧

【選定根拠】 大部分の個体群で個体数が減少

【形態】 シギの仲間としては、中型で繁殖期に入る頃から空中高く舞い上がり、「ズビーヤク、ズビーヤク」と繰り返し鳴き、降下の際は尾羽をふるわせて「ザザザ」または「ガガガ」とけたたましい音をだし、再び舞い上がり、これを繰り返す。シギの仲間ではよく鳴く方である。電柱や枯れ木などによく留まる。他の同型のシギとの姿による識別は難しい。

【分布】 東北地方から北海道の高原や草地に夏鳥として渡来する。

【県内の分布、生息状況】 甲子高原や裏磐梯高原などの草原や西郷村台上、猪苗代湖西方の赤井谷地、布引高原などの草地状の箇所が主な生息地であり繁殖地である。比較的明るいところを好むが、草地の周辺に灌木の広がりが必要のようである。繁殖期が終わると水田、湿地や川岸等に移動する。

【生息に影響を与えている要因】 草地開発 農業汚染

【特記事項】 生息地(繁殖地)の広範囲な保全が望ましい。

